

古河に行こーか

資料 2

開催概要	日時	7/6(土) 10:00～12:00	参加者	古河市在住の市民 21 名
	会場	ヤクルトはなももプラザ 会議室		

- プログラム
- 前回のふりかえり
 - ワークショップについて・事例紹介
 - グループワーク
 - グループ発表 (1 チーム 5 分程度)
 - まとめ・なんでもアンケートの記入等

第 5 回テーマ「市民参画について考える」

令和 6 年 7 月 6 日 (土)、「市民参画について考える」をテーマとした第 5 回市民ワークショップを開催し、総勢 21 名にご参加いただきました。

今回は、開館まで・開館してからの「市民参画」として、①参加していただいている皆さんの熱意を新公会堂の開館までつなぎ、より多くの人に広めていくために、今後どんなふうに関わったらよいか、②施設の開館後、施設での活動にどんなふうに参加したいか、について考えました。

花火チーム

開館まで

- ・市民参加型のイベントを催して新公会堂の必要性に賛同を得る
- ・工事中や開館準備中を現場見学
- ・愛称は募集 & 市民投票で決める

開館してから

- ・市民参加 + プロの演出家の公演
- ・古河を拠点とする音楽財団をつくる
- ・NPO 法人を設立。サポートスタッフとして参加



すいかチーム

開館まで

- ・行政だけで進めず、最後まで市民が参画できるように
- ・観る側と演者など多方面から意見を取り入れてほしい

開館してから

- ・こどもたちに社会科見学や職場体験
- ・自衛隊、警察官など近隣施設の団体もまきこむ
- ・こけら落としコンサートは市民で



風鈴チーム

開館まで

- ・仮囲いアートなどのイベントや植樹体験 (ハナモモ) など、体験・参加型を主とする
- ・SNS や YouTube を活用して配信

開館してから

- ・古河出身の活躍している方による開館イベントや結婚式などで話題作り
- ・利用率をいかに上げるか考え、よりよい古河市へ



うちわチーム

開館まで

- ・完成までの動画をアーカイブ配信して、市民の意識をアップ
- ・古河市の事業者をサポートを依頼してロビー活動をする
- ・古河駅で開館までのカウントダウン表示

開館してから

- ・市民当番制にして改善点を出し合う
- ・「行政」「市民」「管理者」の円卓会議で話し合い



裏面ではグループワークで出たご意見を紹介しています！

ご意見のまとめ 各チームがそれぞれ工夫してまとめた模造紙の表現にできる限り近づけて意見及び見出し、強調表現を掲載しています。

どんな風に参加したい？		
花火	開館まで	開館してから
	- 多くの市民参加型のイベントを催して、新公会堂の必要性に賛同を得て古河市をより元気にする！ - 新施設の案内をしてほしい（ワークショップ参加者対象） - 工事中や開館準備中に現場見学（機運を高める）・工事経過の報告 - 進捗状況を随時伝えていく。SNSや掲示板で。（▲チラシ（コストが増）） - 現場見学会 ・子どもたちに仮囲いに絵などを描いてもらう - 開館記念イベントを早めに企画し、市民に知らせる - 公共施設や市内スーパーに施設模型を設置 - 市民に広報活動（ポスター、市報にA4サイズでお知らせ） - 今ある小さな文化施設を使って、新施設での発表できるものに育てたい - 愛称は募集＆市民投票で決める ・愛称の募集 「日本一」「関東一」何かに特化したホール - 管理運営WS ・実行委員会設置 ・イベント企画、運営 - 設備、その他でオンリーワンの施設にする	- 市民参加型の3tuku「創る!」「作り!」「造る!」 - 新公会堂へ行こう!①参加する②笑ってく<参加>する!③健康! - 市民参加、運営でオペラの公演「フィガロの結婚」「こうもり」「魔笛」等→ - プロの演出家×1名、プロのソリスト5名、市民合唱団120名、合同オーケストラ（古河市民管弦楽団＋古河吹奏楽団＋シティウインドオーケストラ）110名 - 古河を拠点とするオーケストラや劇団等を作る 「発表の場」（内容日時、施設・演奏、演劇）などを設定して、その練習や準備に一緒に関わりたい ・音楽イベントへ参加 - 学生の吹奏楽、バンドの発表会（市内優先、市外もOK） ・学生主体のイベント - 特に用事がなくてもくつろげるスペースでのんびりしたい（暑い日など） - 野外にもスペースあるならマルシェなどもできると思う - 古河市のアピールができる道の駅的な利用ができるスペースの併設 - サポートスタッフとして参加。NPO法人設立 - 市長による運営委員会の設立 ・機関誌の発行
すいか	開館まで	開館してから
	- 市民オケ、吹奏楽 etc…などの意見を取り入れてほしい - 行政だけで進めないで - 文化団体等、各種団体に入ってもらう - 基本設計について、多方面から意見を取り入れてほしい - 開館までに市民との話し合いの場を増やしてもらいたい（1回ではなく最後まで） - 愛称を募集（ネーミング） - 最後まで市民の参画 - 新しいホールのアピール（近隣の都県）、新聞、SNS - 市民へのアピール（チラシ、ポスター、SNS） - 広報活動 SNS、紙も必要 ・広報誌 PR ・SNSでのPR - 現場見学会（建設中・建設後）	- 職場体験をしてもらう - 学生の社会科見学 - 子どもたちに指揮者体験コンサート - 地域の祭り、イベント - マルシェ、フリマ、マーケット - 市民音楽祭 - プロの演奏家等による市民への指導 - 自衛隊、警察等の団体、オーケストラとの連携 - 市民オケ、吹奏楽によるこけら落としコンサート - イベントのある日だけでなく、日常的に集える - 施設ごとのボランティアの方の充実
風鈴	開館まで	開館してから
	- 建設の様子をライブ配信、動画作成 ・現場見学会（子ども向け） - 市のLINEで宣伝活動 ・週1回の進捗状況報告（SNS） - 現場見学会を定期的に開催（着工→施工→開館） ・多言語表記 - 植樹体験（ハナモモ）など - 新ゆるキャラ募集 ・施設の愛称募集 ・施設の愛称、ロゴマーク - 仮囲いに子どもたちが作ったプロジェクションマッピングを映す - 仮囲いアート（市民参画）各アート ・仮囲いアートなど子ども向けイベント - 仮囲いアート（市民もだてテレビを使ってPR「プレバト」） 「ぐるりん号」へのラッピング - 市のイベントへのPR、ブース出展!展示! ・公民館、スーパー etc、ポスター掲示 - イベント（お祭り、キッチンカー、ダンスイベント） - 物産展などへのPRする場を設けて市民参加で! 「こがくらす」でのムービー撮影を市民参加で - 公会堂とは？を考えるワークショップを学校に行き開催する - 委託会社の選定 - 運営方針のワークショップ（よりよい運用が行えるように） - 理解を得てもらうための設計のワークショップ - 基本設計、基本管理方針の検討が最大のポイント→基本設計のたたき台ができた時点で検討会に参加→PGスケジュールの最初の段階から参加→第1回～第4回までの様々な重要な意見がどう反映されたかチェック→最低どんなことは死守したいかをここで表明する→この時点で「思い入れ」を盛り込まなければあととは流されるだけ→それがなければワークショップに参加した意味がない!	- 各種イベント時の運営参加 ・子どもボランティア - 利用している風景や様子を発信 ・古河出身の活躍している方の紹介イベント - 引き続きのPR（市民の自慢・誇りに思えるように） - 報奨制度（例：7割減） - 生涯学習センターを設ける - 外でイベントを行う（カフェ機能・ランチ・シェアキッチンなど） - 個人や小さい団体でも利用できるレンタルスペース利用 - 子ども食堂 - 音楽を行っている人全体でライブイベント（プロ・アマ問わず） - 子ども縁日の開催 ・キッチンカー祭※月1回の開催 - おじいちゃん、おばあちゃん→子どもたちへ遊びを伝える - 利用する団体の交流イベント ・結婚式などの話題づくり - 市所管団体：国際交流協会イベント ・個人の団体：イベント - 講演会 ・音楽 ・演劇 - 室内という天気は左右されない子ども向けイベント（見る、触る、体験） - 伝承遊び ・年1回著名人による講演会 - サポートスタッフの育成→若者や技術育成 - 色々な目線の公会堂ツアームービー（子ども、ママ、団体） - ワークショップに携わった方が主催するイベント、想いを伝える - 管理者と利用者の利害調整を行う「コーディネーター」を指名する→コーディネーターは市が指名し、相応の権限的なものを付与してほしい→「管理者」「古河市」「コーディネーター」他のフィードバック会議体設ける→コーディネーターは第三者的な位置付けで、公会堂の最適運営に努めることとする
うちわ	開館まで	開館してから
	- 解体も含めてすべて民間に任せる。行政は借りる 「チーム古河」でいかに持続可能な施設にするか皆で取り組む→ダイバーシティ実践、可視化 ・子どもたちが植樹する ・館内のテーマ音楽を市民から募集 - 施設の設計者による解説（中高生向け等） - 他県の市町の施設で鑑賞に参加したとき、古河市のホールにつながる如果能够あれば要望を市に伝える - キャッチフレーズやロゴマークについて、積極的に考案を募りたい - いかに市民のモチベーションを上げて「心理的安全」を醸し出せるか、経験と知識を提供する - 開館までのありったけの知識をアウトプットし、他県施設との差別化を図る - いまさら古河市文化施設の方向性がない。ネーミング募集「公会堂」ではおかしい ・外から眺める施設を想像して興味、関心を持つ - 古河市を盛り上げたい気持ちがある方々へのクラファン実施→一定金額以上の方に古河特産品プレゼント - 古河市事業所からの資金サポート→CSR西口の職員とのロビー活動 - 開館までのカウントダウン表示を古河駅西口・東口に設置 - 開館前に市民会館見学に行きたい ・他の町のホールの施設（舞台、客席、その他）の見学 ・FD（フューチャーデザイン）導入について - 外にかまどを作るワークショップ（災害にも役立つ）かまど→市民の手で手入れしていく ・ホリプロとの連携を最大限利用し、毎日の音楽イベント等、普及ロビー営業活動を職員と行う - 工事中の建物の見学 ・進捗状況を常にUP。誰でも見られる - 現場完成までの見学会を動画アーカイブ配信して、市民の意識アップ - 市民ワークショップが終わったことでの、その後の実行委員会等の状況をアーカイブ配信する→モチベーション持続 - 新公会堂建設に対して、常に関心を持ち、友だちと工事現場などの話題に参加する - 工事中からショート動画を撮りためる（後で1本の動画に）	- 花の手入れ - 曜日ごとに館内に流す音楽を変える（市民クラシック） - 若者の起業の一助のため、週替わりの出店をサポートするマルシェ 「行政」「市民」「管理者」の円卓会議で話し合い - 企画や運営、イベント等に参加し一助になりたい - 周年系実施。古河のシンボルとして知名度アップにつなげる - 能楽の舞を奉納（古河に能のプロがいる） - 企画運営が活性化するための運動に積極的に参加する（特に教育現場が表現できる活動） - 施設収支報告を1クォーター（3カ月）ごとに出してもらい確認し、改善点を常に考え実行に移す - 市民当番制 7:00～9:00や19:00～21:00、21:00～22:00etc - ホールの企画として習い事（楽器の演奏、ダンス、日舞、演劇）などの教室（ワークショップ）を行い、舞台での発表会まで - 特に高齢者が元気に楽しく参加できるイベントには、リーダーとしての実施者となりたいと思っている - 市内の特技、技術を持った人を登録して講座を開催依頼 - 講座やボランティア等の実施時には協力を原則として参加したい - ホリプロと市民参加のつながりはどうするの？ - 館内、館外リアルタイムカメラをつけて発信 - 各施設の利用状況がわかるようにする（使用したい時にすぐにわかるように）→アプリ

今回で「古河市新公会堂を考える市民ワークショップ」は終了となります。全5回を通して、市民の皆さんから様々なアイデアをいただきました。ありがとうございました。いただいたアイデアやご意見を参考としながら、より良い施設を目指して引き続き検討を重ねてまいります。今後も市民説明会など、様々な意見をいただく場を企画しています。これからも新公会堂に関心を持っていただけますと幸いです。

